

まちのニュースは、町内の主な出来事をお知らせするページです。

まちのニュース

TOWNS NEWS



幕別分校では、地域に合わせたキャリア教育に力を入れており、7人が入学した「産業総合科」では、週12時間後の就労や社会的自立を進めるカリキュラムが組まれています。松岡教頭が作詞、赤松校長が作曲した校歌が、この日の入学式で初めて披露され、新入生は、希望に満ちた新たな一歩を踏み出しました。

普通高校に養護学校の分校が併置されるのは道内初の試みで、モデル校として全道の注目を集めています。

赤松校長は「幕別分校として歩きはじめた特別な日。思い出や仲間をたくさん作ってほしい」とあいさつ。入学者を代表して井出優太さんが「多くのことに取り組み、一生懸命頑張る」と宣誓しました。

中札内高等養護学校幕別分校の第1回入学式が行われ、保護者や学校関係者など約50人が出席。新入生7人が新たな学校生活をスタートさせました。

4/16 幕別高等学校体育館 歩きはじめた特別な日

困ったら、まず相談！

3/8 幕別中学校

幕別中学校で「行政相談出前講座」が開かれ、3年生36人は、行政相談委員の活動内容や行政の仕組みについて学びました。

講師を務めた行政相談委員の松本茂敏さん(新町)は「困ったことがあれば、一人で悩まず相談にして欲しい」と呼びかけました。



地域の安全のために…

3/21 糠内公民館(コミセン)

町内の森若建設(株)が地域貢献活動の一環として、糠内公民館にAED(自動体外式除細動器)を寄贈しました。

鉾建専務は「地域のために少しでも貢献できればと思っていた。利用者の安全が確保できればうれしい」と話していました。

学び続ける意識高く

3/25 町民会館

高齢者学級「しらかば大学」の修了式が町民会館で開かれ、学生約150人が出席しました。

4年間の学習を終えた11人の卒業生が修了証書を受け取り、卒業生を代表して岡坂薫さんが「4年間で多くのことを学ばせていただいた。大学院でも頑張る」と答辞を述べました。



農業の未来を担う

3/27 農業担い手支援センター

農業振興公社が運営する「まくべつ農村アカデミー」の第16期修了式が行われ、14人が修了しました。岡田町長は「幕別町の農業の中核者として頑張ってもらいたい」とあいさつ。

修了生を代表し山口秀朋さんは「学んだことを生かして農業に励む」と答辞を述べました。

信じていた全国制覇

4/5 教育委員会

第8回風越カップ全日本少年アイスホッケー大会において、石井眞皓さん（左）と西岡駿さん（右）が帯広選抜の一員として出場し、全国制覇を達成しました。

石井さんは「全国制覇できると信じていた。中学校に行っても続けたい」と話していました。



オリンピックを目指す

4/9 役場3階応接室

3月にカナダで行われたスピードスケートの国際大会、男子1500メートルで1分45秒37の日本新記録を樹立した今野陽太さんが役場を訪れました。今野さんは「ソチオリンピックに向けて、すでにトレーニングを始めている。必ず出場する」と意気込みを語りました。

ていねいに発掘作業

3/30 忠類ナウマン象記念館

町内の小学生とその親を対象に親子でミニ発掘体験教室が開催されました。

参加した48組101人の親子は、棒やハケなどを使い小さな石膏の塊の中に埋められている化石やクリスタルの発掘を体験し、化石などが現れると目を輝かせていました。



南十勝の魅力発見

4/1

南十勝夢街道プロジェクト推進協議会と南十勝5町村観光協会、十勝シーニックバイウェイ南十勝夢街道が共同作製した南十勝観光ルートマップが完成しました。

マップは南十勝エリアの見所を宝の地図に見立てて作られ、道の駅などに設置されています。

上級生と仲良く登校

4/9・10 忠類小・中学校

新入学児童等交通安全街頭啓発が忠類小・中学校前で行われました。この運動は、毎年新入学時期に合わせて行われているもので、2日間で延べ59人の方々が交通安全の啓発を行いました。新1年生の児童たちは、上級生と一緒に車に気をつけて登校していました。



50年の節目を祝って

4/16 忠類農協

忠類地区税申告協議会の設立50周年記念式典が開催され、関係者ら約30人が出席しました。式典では、歴代の事務局が表彰され、杉坂会長より感謝状が贈呈されました。

式典後は祝賀会が行われ、和やかな雰囲気のもと、50年の歴史を懐かしみ歓談が尽きないひと時でした。



元気に学校生活スタート

4月8日・9日、町内全ての小学校で入学式が行われ、226人の新1年生が笑顔を輝かせて学校生活のスタートを切りました。

在校児童や保護者の拍手に迎えられ、元気良く体育館に入場。在校児童を目の前に、少し緊張していましたが、名前を呼ばれると大きな声で「はい」と返事をしていました。

